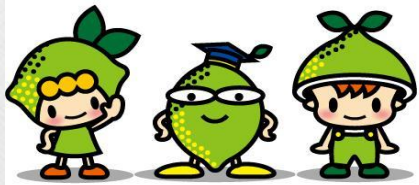


# 「看護研究のための 文献検索講習会」

## 実施状況



島根大学附属図書館 医学図書館  
医学情報グループ 医学サービス担当  
田中やよい

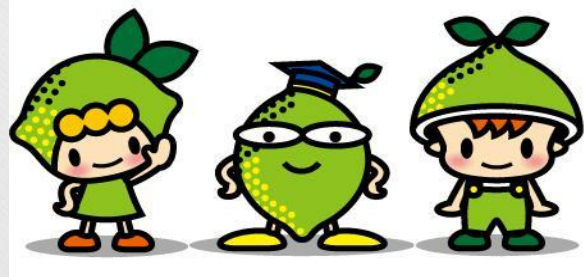
## 報告者

勤務年数: 入職3年目(医学図書館は2年目)

2016年度 本館サービスグループ資料利用担当  
(利用者対応、貴重資料の利用対応)

2017年度 医学図書館 サービス担当に異動

2018年度 看護部文献検索講習会の担当になる



# 講習会の概要

---

- 島根大学医学部附属病院の看護職員を対象とする  
文献検索講習会
- 2017年度から開始(今年は2年目)  
→2016年の医図懇総会がきっかけ
- 看護部の要望 「研究に興味を持つきっかけづくり」  
「図書館を気軽に利用してもらおう」  
「図書館職員と看護師が顔見知りになる」

# 昨年度との比較

	昨年度(2017年)	今年度(2018年)
開催回数	4月～8月 月2回 10回 10月～2月 月1回 4回 年間14回	6月～2月(8月除く)月1回 年間8回 (第3水曜日)
講義時間 内容	前期 全5回(30分)※月内は同内容 (1)図書の見つけ方 (2)雑誌の見つけ方 (3)文献を探す準備 文献の種類 (4)文献の見つけ方① 医中誌Web (5)文献の見つけ方② 最新看護索引web  後期 前期(3)(4)の内容(60分) (医中誌webの検索)	60分 1回完結型 「医中誌Web」の解説、 検索の演習
参加人数	合計 55人	(6～11月まで) 14人(平均2.8人)

# 2018年度当初の計画



- PowerPointで解説する（同内容の資料を配布）  
内容：文献の整理、参考文献の読み方/書き方、医中誌Webの使い方、文献の入手方法、電子ジャーナル
- 参加者が『医中誌Web』にアクセスして文献検索

# 第1回講習会(6/20)の結果...

---

- 話す側

時間が足りない (時間が足りてすべて解説できたとしても、参加者の学習効果は???)

- 会場での反応 & アンケート

「言葉が難しい」「専門用語が多い」

→報告者の「話下手」を割り引いても、全体的に「わかりにくい言葉」が多くなっていた

# 「1回完結」講習会の 達成目標とは？

---

- 医学図書館利用のきっかけづくり

→「とりあえず試して、分からなくなったら図書館に訊こう」

- 図書館ホームページのサービスを知って、使ってもらおう

→「医中誌Web」へのアクセス方法

→リモートアクセス(学外からの電子リソース利用方法)

- 看護研究の動機づけ

→「気になっていること/調べたいこと」を、研究テーマとして

育てるには…「簡単な検索語」への近道



# 方針変更！

- 配布資料の説明内容を限定(赤字部分のみに)  
(文献の整理、参考文献の読み方/書き方、医中誌Webの使い方  
文献の入手方法、電子ジャーナル)  
→省略部分は「分からなくなったら資料を見て/図書館に訊いて」が  
可能であると判断した
- 医中誌Webでの文献検索の時間配分を多くする
- 参加者の反応重視。改善点は即時対応&次回に反映



## 第2回以降の改善内容...

---

- 7月…医中誌Webの文献検索の時間を増やす  
…「シソーラス参照機能」を中心に解説
- 9月…「シソーラス参照機能を使った研究テーマ探し」  
資料を作成し、解説をリニューアル
- 10月…「リモートアクセスのログイン確認」実施
- 11月…「検索結果のメール送信」解説  
→会場での質問、アンケート結果などを随時、意識的に反映

# 最近(11/21)の講習会

---

- 図書館利用状況の聞き取り(開始前の雑談)
- 図書館HPへのアクセス方法、医中誌Webの解説
- 医中誌Webの検索
  - 「リモートアクセス」接続確認
  - 「シソーラス参照機能」で検索
  - 論文検索、絞り込み検索機能
  - PDF入手、文献複写の申込
  - 結果のメール送信 (参加者の進行状況を合わせる)
- アンケート記入

# 「シソーラス参照機能」を 売り込む

---

- 「調べたいことは、とりあえずシソーラス参照！」
- 「これ看護学研究では何て言うの？/=統制語」を  
教えてくれる機能なので、「とりあえず検索」で大丈夫
- 「研究するための特別なデータベース」ではなく、  
日常業務の調べものに活用できる(“ググるより医中誌”)
- 調べものは、「研究のアイディア」につながるかも…

→「シソーラス機能」を使った図書館でのレファレンス事例の紹介

# 「シソーラス参照機能」で 検索演習

「何でも」  
「最近気になったこと」  
「一般的ななことでも」

→ 配布資料の検索語は  
「熱中症」(シソーラス用語)  
「チョコレート」(フリーキーワード)  
「ポテトチップス」(該当なし)

→ シソーラスを手がかりに、適切な検索語への「近道」探し

The image shows a document with two columns of text and screenshots of a search interface. The left column discusses search strategies, mentioning 'シソーラス参照機能' (Thesaurus Reference Function) and 'フリーキーワード' (Free Keyword). The right column shows search results for 'チョコレート' (Chocolate) and 'ポテトチップス' (Potato Chips), with annotations explaining the search process and the use of the thesaurus to find related terms like 'ショコレート' and 'ココア'.

**左側テキスト:**

- 正しい人のための。
- シソーラス参照機能を使った研究テーマ探し。
- いきなり結論：「調べたいことは、とりあえずシソーラス参照で検索する習慣を！」
- シソーラス参照：適切な検索語を見つけるための便利機能
- 「この前読んだ研究で何で何の？/色んな言い方があるけど？」→「熱中症」を覚えてくれる！
- 適切な検索語が見つかる瞬間に、「それ」を覚える再読(参照)を設定。繰り返して検索する
- ※「おん」(書)「書」(書)「書」(書)で検索すると、読解「書」で検索結果が出てくる
- (読書の読み方)一つの読解書にまとめるので、表記違いなどに対応する)
- こんな人におすすめ
- ①「業務でこれがなくなった」「これ研究テーマになるかも？」と考えていることがある。
- ②「調べたいことはあるが、どのような検索語で調べればよいか分からない/自信がない」
- ③「書庫検索でよく出てくるけど、何の書か？」という悩みがある
- ④「書庫でいろいろ読む時間はないけど、読書傾向を確認してきたい」
- シソーラス参照 → 「論文検索」の強み
- 「気になること」を「研究のキーワード(書庫の学術用語)」に変換しやすい
- 書かれたシソーラス用語から、興味関心(研究のテーマ)を発見できる
- 論文検索の結果から、定量的状況を確認できる。Web上で無料の「論文」も入手できる。
- 「調べたいこと」をあらかじめ「適切な検索語」に変換できるので、論文検索の効率が良い。

**右側テキスト:**

- 検索結果別の対応
- ①「シソーラス用語」
- 調べたい用語(「調べたいこと」と「シソーラス用語」を照合)して、自動的に変換された語が検索される場合。
- キーワードの検索結果を見る)から、同語群「上位語・下位語」を確認する。
- 検索の際には、「参照書」で論文を検索することが可能もある。
- ②「自由語フリーキーワード」
- 自由語フリーキーワードが自由に書かれた状態で「検索」したものを、論文検索して、関心のある論文の検索結果で「シソーラス用語」を確認して、検索語を再設定する。
- 上記シソーラス用語「書」を使って検索してある。参照書を活用して取り込む。
- ③「該当する検索結果なし」
- 「論文検索からシソーラス参照」
- シソーラス参照の検索結果ではありませんが、シソーラス参照の結果から、適切な検索語が見つかる場合があります。
- 論文検索の結果から「適切な検索語」が見つかる場合があります。
- 「もっと大まかに」検索語を再入力して。

# 参加者の反応

---

- 「あ、何か学生時代に習ったような…」
- 「探していた事例のPDF(論文)がありました」
- 「検索した語のシソーラス用語の一覧が多くて驚いたが、候補を選択することで、調べたいことがはっきりしてきた」

→講習会での反応、アンケートからは好評の様子

→PDFの入手や用語検索に熱中する参加者の姿も



# 看護部の協力

(看護研究推進委員)

- 「看護研究推進委員」  
→ 看護研究の経験者または研究を行っている看護部職員が「講習会担当者」として、毎回1名参加する  
→ 効果大！
- 的確なアドバイス(参加者の演習に/職員の質問に)や「よい質問」が出される
- 「研究する気持ち」がある参加者の存在(検索演習が熱心な雰囲気が進められる)
- 他の看護職員への情報伝達(「他のスタッフに訊かれていたことなので、今日教わったことを伝えます。」)

# 今後の課題

---

- 1回の参加人数が増えた(10人程度)場合には、現在のやり方から変更が必要
  - 少人数向け/初学者向けの講習会
- 参加人数の全体的な増加(昨年度より少ない)
- 昨年度・今年度の参加状況をふまえて一定した内容で講習会を行う